

Relationship Between Oral Health, Quality of Life, and Comprehensive Health Literacy in Community-Dwelling Older Adults

奥村（松尾），里香

<https://hdl.handle.net/2324/7157300>

出版情報：Kyushu University, 2023, 博士（看護学），課程博士
バージョン：
権利関係：(c) 2023 Springer Publishing Company

| | | | | | |
|--------|--|------|----|----|----|
| 氏名 | 奥村(松尾)里香 | | | | |
| 論文名 | Relationship Between Oral Health, Quality of Life, and Comprehensive Health Literacy in Community-Dwelling Older Adults (地域在住高齢者における口腔の健康、QOLと包括的ヘルスリテラシーとの関連性) | | | | |
| 論文調査委員 | 主査 | 九州大学 | 教授 | 鳩野 | 洋子 |
| | 副査 | 九州大学 | 教授 | 諸隈 | 誠一 |
| | 副査 | 九州大学 | 教授 | 後藤 | 健一 |

論文審査の結果の要旨

本論文の内容は、地域在住高齢者の包括的ヘルスリテラシーが、客観的な口腔衛生および口腔健康関連 QoL(OHRQoL)と関連するかを明らかにしたものである。

口腔内の健康は全身の健康に影響することが明らかにされている。また、口腔疾患の有病率にはヘルスリテラシーの低さが関連していることから、この研究テーマが決定された。

研究では 65 歳以上の地域の健康教室への参加者に対して、自記式質問紙調査が行われた。また、同日に口腔健康評価ツール(Oral Health Assessment Tool)を用いた、参加者の口腔状態の客観的な評価が行われた。質問表では、OHRQoL を測定するための Genetal Pral Health Assessment Index と、包括的ヘルスリテラシーを評価する European Health Literacy Survey Questionnaire 短縮版、および基本属性が含まれた。データは単変量解析および多重ロジスティック解析を用いて分析が行われた。

参加同意者 145 名のうち、118 名を有効回答として分析が行われた(有効回答率 81.4%)。このうち、客観的口腔衛生の「口腔清掃」が「病的」と判断されたのは 18%であった。多重ロジスティック回帰分析により、包括的ヘルスリテラシーは口腔清掃と OHRQoL の有意な関連が認められた(OR=5.00;3.33,p<0.01;p<0.05)

以上の結果より、包括的ヘルスリテラシーが口腔衛生状態の保持、および口腔健康関連 QoL に影響する可能性が示唆された。このことから、高齢者の健康状態を保持するためにも、看護師は高齢者との接点を有した際、特に併存疾患のフォローアップの機会をとらえてヘルスリテラシーの評価を行い、個人にあわせた保健指導をおこなってゆく必要性が述べられた。

この結果は、今後の臨床看護実践においての有益な可看護介入の一つとなりえる可能性がある。調査委員の合議の結果、本論文は博士(看護学)の学位に値するものと認める。

鳩野 洋子
諸隈 誠一
後藤 健一